

第3号

地域・家庭・学校をつなげる新聞!



# 熊谷ひみつ新聞

Kumagaya Secret Newspaper

発行 社団法人 熊谷青年会議所  
熊谷市宮町2-39 熊谷商工会館内  
電話 048-524-0440  
FAX 048-524-0519  
http://www.kumagaya-jc.or.jp/



後援 熊谷市  
熊谷市教育委員会  
熊谷商工会議所

印刷 株式会社ピーアイピー  
熊谷市筑波1-157-2  
電話 048-524-1463

特集

熊谷の歴史を探る 気仙沼と熊谷次郎直美

牛乳のひみつ	1ページ
おもしろスポットのひみつ	2ページ
看護師さんのひみつ	3ページ
熊谷の歴史を探る	4ページ



牛乳を作るには  
いろいろな行程が  
積み重なって  
いるんだよ!



## 牛乳のひみつ

私たちが普段飲んでいる牛乳、そんな当たり前の日常を深く掘り下げてヒミツを探ってみました。

人間と同じ母牛は子供を出産すると、お乳が出る。そんなお乳を人間はおすそ分けしてもらっているんだよ。驚くべきは一日に約30Lものお乳を出します。そんな牛は草食動物、草などを食べ、(あまり栄養のない)大量の牛乳(タンパク質に変換できる)を作ることのできるスゴイ動物でした。牛の寿命は、平均18歳。意外と短く、母牛は3回の妊娠、出産をします。妊娠期間も人間とほぼ同じ10ヶ月だそうです。



### 埼玉酪農さんのお仕事

たくさんの牛乳を一日で15~16トン処理します。学校給食を約180校のほかに病院、幼稚園、直売所に一日72,000個の牛乳を届けています。一時間に3000個詰められる機械と6000個詰められる機械があるので、都合1時間9000個の牛乳パックが出来ます。

衛生管理に気を付けています。  
残さずおいしく飲んで下さい。



前もって  
連絡をすれば  
見学することが  
出来ます!!

埼玉酪農業協同組合 〒360-0833 熊谷市広瀬 456 TEL 048-521-1033



タンクに貯められた牛乳



殺菌処理をします



殺菌処理後パックに入る準備



牛乳パックの準備



牛乳をパックへ



パックの口を閉じて仕分けへ



牛乳は出荷のため分けられます



出荷される貯蔵庫



ここからみんなのもとへ

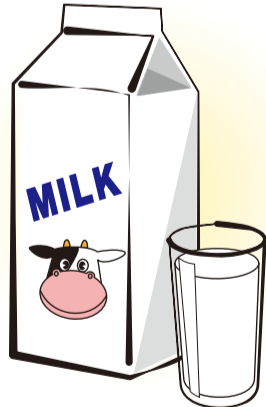
### 熊谷市内では どれだけの牧場が あるの?

熊谷市に合計20箇所もあり、たくさんの乳牛が育てられています。一日で、やく6tもの牛乳がとれるそうです。

みんな牛が大好き。ペットや家族のように接して可愛がっています。そんな自慢の牛のコンテストにもお邪魔したら、ドライヤーで毛をセットしてもらいながら、出番を待つ光景が、あちらこちらで見かけ、本当に可愛がっている様子が大変伝わってきます。

### 酪農家へ聞き込み

### 牛乳工場へ



普段給食に出る牛乳は、熊谷市の広瀬にある埼玉酪農さんで作られています。ここには熊谷市の牧場からも牛乳が届けられ、ほかの地域からも沢山運ばれてきます。1日に出荷する量は、なんと70t熊谷市近隣も含め遠いところで上尾市の学校給食にも埼玉酪農でつくられた牛乳が届けられています。

記者 久保塚康・吉野勝美  
※熊谷市以外からも集められた牛乳の数

3ページ



看護師のひみつ

2ページ



おもしろスポットのひみつ



パンパンに膨らんだ乳牛の乳











今回は熊谷外科病院さんを取材しました。

風邪などで体調が悪いと病院に行くと思います。そこで、先生に体の悪いところを診てもらっている時、先生の指示の元で注射や点滴、薬を飲ませてくれる人を看護士といいます。

看護士さんはその他にも、入院している患者さんのベッド周りやベッド上の整理など身の回りのお世話をしたり、検査を受ける患者さんには事前に検査の内容や、受ける場所へ誘導したり、手術後に自分で動けない患者さんの為に食事や着替え等のお世話もしたりします。これだけきついお仕事を一日中しながらも常に笑顔でいなくてはなりません。看護士さんが笑顔でない患者さんは不安になってしまうからです。そんな大変なお仕事をしている人たちの秘密についてです。

### 看護士さんに なったきっかけ

運動をしていたら大きな怪我をして入院した時に、とても親切にしてもらった看護士さんに憧れて看護士を目指し始めました。みなさんのお父さんお母さんも知っている、キャンディキャンディという漫画の主人公に憧れて看護士になりたいと思って目指し始めました。

### 看護士さんは 2交代制で働いている

看護士さんの勤務スケジュールは2交代制をとっているところが最近では多いです。2交代制とは、日勤と夜勤の2つの勤務時間にそれぞれ振り分けられて仕事をすることです。

#### 日勤は

朝8:40 ~ 17:00の 日中の約8時間

#### 夜勤は

夕方16:30 ~ 9:00の 夜を中心に 16時間半の勤務



2交代制だと交代する回数が少なくなる分、看護士さんの1回当たりの勤務で働く時間が長くなりますが休日により多く確保することが出来るようになります。

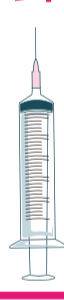


### 看護士さんの昼食

いつも院内を忙しく動き回っている看護士さんの昼食は、病院内の食堂で食べています。自分でお弁当を持って来ている人もいて看護士さんの休憩所で食べたりもします。

食堂のご飯は入院患者さんと同じ物を食べています。(栄養バランスを考えて作っているのもとても好評です。)

### 注射針



病院と聞いて、すぐ思いつくのは注射!! 今の注射針は研究で先が細くなっている痛みを和らげる工夫をしています。

### 平均患者数

平成23年度の外来の平均患者数150人 平日は180人〜280人の患者数が来院されました。

### 最も患者さんの多い月 ベスト3

- 1位 1月 289件
- 2位 6月 279件
- 3位 11月 266件



※丁度、この第3号熊谷ひみつ新聞発行のこの時期、インフルエンザが流行りだす頃です。良い子のみなさん、お家に帰ったら手洗い、うがいを忘れないで行って風邪をひかないようにしましょうね。

### 看護士になって良かった事

看護士の仕事は体力的にもとても疲れるし、精神的にもものすごくストレスもたまります。また、自分の行いが多くの人間の生死にかかわるので責任の重さが他の仕事とは全然違います。それでも看護士になって良かったと思う瞬間というのは患者さんにあります。

働いている中で多くの患者さんに感謝されたり、元気になって退院していく患者さんの笑顔というものに支えられています。

生死と向き合う中で残念ながらもなくなってしまう場合も、看取りながら家族愛や人生観について多くを日々学ばせていただいています。

よく患者さんに「いつもお仕事大変ね」と言われますが、ボランティア精神というか、実際にこの仕事が好きだから続けています。逆に好きじゃなければできません。まさしく奉仕の心が第一です。

記者 田村剛史・栗原啓



熊谷外科病院





# 熊谷の歴史を探る

Exploring the history of Kumagaya

## 第3回 気仙沼と熊谷次郎直実



みなさんは「熊谷直実」を知っていますか。今から800年以上前に「源平の合戦」で活躍した武将のことで、活躍した様子は『平家物語』などに描かれており、全国的にも有名な武将です。みなさんには「秩父の峰の〜」で有名な「直実節」の人といったほうがわかりやすいかもしれません。熊谷駅北口のロータリーには直実公の銅像があり、今でもその勇士を見ることができ

**そんなにも有名なの？ 有名なんです！**

熊谷直実は1184年2月の一ノ谷の戦いに参加し、平家の陣に一番乗りで突入するという手柄をあげました。『平家物語』によれば、この戦いで戦う相手を探し求めていた直実は、波際を逃げようとしていた平家の若武者を呼び止めて、一騎打ちのはてに首を取ろうとすると、ちやうど我が子・直家ぐらゐの年(17歳位)でした。直実は一瞬この自分の息子と同じような年の若者を逃がそうとしましたが、

背後に味方がいたので逃がすことはできないと思い、泣く泣くその首を…。

その後、誰だったのかを調べたらこの若武者は平清盛の甥・平敦盛と判明しました。戦争とはいえず自分の子と同じ年のような若武者を殺さねばならなかった世の中に深く悲しみ、お坊さんになることを決意したといわれています。

**気仙沼に熊谷**

このときの話をもとに江戸時代の中期には『二谷嫩軍記』という歌舞伎の演目となり、特にこの直実と敦盛のエピソードは『熊谷陣屋』という段に描かれております。この『熊谷陣屋』では敦盛をある理由(「一枝を伐らば、一指を剪るべし」)から逃がし、その代わりにわが子の首をとり身代わりにしたという話になっています(直実の妻・相模がわが子の首をみて泣き崩れるところが観衆の涙をさそう歌舞伎の名場面です)。

今年6月24日に、気仙沼市文化会館で熊谷歌舞伎の会のみなさんが、小鹿野歌舞伎保存会の協力をあおぎながら『二谷嫩軍記』を上演しました。当日の会場は1,200人で埋まり大盛況だったそうです。

でもなぜ気仙沼で歌舞伎をするようになったのでしょうか。それは平成19年10月に熊谷の熊谷寺で「熊谷次郎直実公800年忌記念 直実・蓮生まつり」(蓮生は直実の出家した後の名前)が行われ、その時に全国の「熊谷さん」を招待し、それに気仙沼の熊谷さんが応じたのがきっかけでした。またその後発生した東日本大震災の復興支援ということも加わり、今回の上演が決まりました。「熊谷歌舞伎の会」の人で本人も直実の妻役・相模を演じた長島利夫さんに話を伺いました。「直実公は地元の英雄です。その英雄の活躍を平家物語や二谷嫩軍記などの文学を通して知ることができるといいことではないでしょうか。是非こうした文学を通じて郷土の英雄のことを知ってください。それがきっかけでいるいるな人と出会ったことができたりと、ちよつとかじつただけで世界がどんどん広がっていきますよ。」

「二谷嫩軍記」は歌舞伎の世界では有名で、今年の3月には国立劇場でも上演されている演目なのです。また全国的にも有名で広く上演されてもいます。しかし、熊谷市民がどこまでその内容を知っているのでしょうか。郷土の英雄についても少し深く知らないといけないと感じました。文学を通して直実公をもっと知ること、自分たちの住んでいる地域のことを誇りに思うようになるのではないのでしょうか。気仙沼と時空を超えた縁を結んだのは熊谷直実その人でした。

「二谷嫩軍記」は歌舞伎の世界では有名で、今年の3月には国立劇場でも上演されている演目なのです。また全国的にも有名で広く上演されてもいます。しかし、熊谷市民がどこまでその内容を知っているのでしょうか。郷土の英雄についても少し深く知らないといけないと感じました。文学を通して直実公をもっと知ること、自分たちの住んでいる地域のことを誇りに思うようになるのではないのでしょうか。気仙沼と時空を超えた縁を結んだのは熊谷直実その人でした。

**調べてほしい ひみつ大募集**

地元熊谷で調べてほしい「ひみつ」を募集しています。ハガキに調べてほしい内容を書いて下記住所にお送りください。

皆様からの新聞に対するご意見もお聞かせ下さい

**応募先**

〒360-0041 熊谷市宮町2-39 熊谷商工会館内  
熊谷ひみつ新聞「ひみつ大募集」係  
社団法人 熊谷青年会議所



**なぜ市の名前といっしょなの？**

なぜ「熊谷」と名乗っていたかという、熊谷に住んでいたからです。なんて単純って思わないでくださいね。昔は自分の住んでいる地名をそのまま苗字にしている例は多くありました。たとえば室町幕府初代将軍の足利尊氏は栃木県足利市に住んでいたから足利氏なのです。本当の姓(苗字ではないですよ)は「源」です。

**直実公と熊谷寺**

市内にある熊谷寺は、直実が元々は自分の住んでいた家(生家)のなかに小さな庵をつくって経をあげていました。それが今の「熊谷寺」です。その熊谷寺には直実の墓がありますが、金戒光明寺(京都市)や高野山(和歌山県高野町)にもあり、その他にも数か所お墓があるそうです。金戒光明寺の蓮池院という場所には討ちとった平敦盛の石塔と直実の石塔が向かい合って建てられており、高野山には「熊谷寺」という名の寺もあるそうです。各地に直実とゆかりのあるところがありますね。熊谷寺のご住職は「熊谷次郎直実公は出家してから、もうこれ以上無駄な争いごとはしないで、みんなで仲良く暮らして生きていこうと思っていたそうです。だからみんなにもつまらないことでケンカしたり、いじめたりなんてしないで、やさしい心を持って明るく元気に毎日を過ごしてください」

さて、ひみつ新聞は来年も続きますが、おじさんは今年で編集長を卒業します。来年の編集長はもっと面白い新聞を考えてくれるでしょうーあーあーとつぶやいていました。

編集長 井ノ瀬広和

「ひみつ新聞面白かったよ」「また楽しみにしてね」と皆さんから声をかけてもらっただけで、一日中ニコニコしています。美味しいものを食べるより、素晴らしい洋服を着るより、立派な家に住むより、何より幸せを感じる瞬間です。きつとみんなも大人になったらそれがわかる時が来るだろうし、今も誰かにありがたうと言われたら、嬉しくなるといいます。

**編集後記**

こんにちは！佐谷田小学校出身の40歳のあつさんです。

さて、ひみつ新聞も第3回になりました。今回もいろいろところに取材に行ってみました。どちらかというとあつさんは何にもせず文芸方面で、実際の取材はそれぞれの記事が行っています。記事の下調べから取材の協力をお願いし、写真撮影、文章のチェック、いろいろな作業を記者がやってきています。記者の人達はこの仕事の本職の仕事ではなく、工事関係の仕事や住宅関係、飲食関係など、普段は別の顔を持っています。みなとても仕事が忙しく、ひみつ新聞の記事が書けるのは夜遅くなって、仕事が終わってからです。本当はご飯食べて、明日に備えて眠りたいのですが、皆さんにもっと熊谷を好きになってもらいたい、将来大きく活躍する人になってもらいたい、という気持ちで眠い目をこすりながら記事を書いています。取材は昼間行くことも多いですが、仕事の合間、お昼の時間を削りながら取材に行っています。そんな思いをしてやっていますが、おじさん達もひみつ新聞を出すに当たって、1円も給料をもらっていません。おしろいのような費用は、自分たちで出し合っています。